vinetur

アルゼンチン、10月のワイン輸出額が19.3%増

低価格のバルクワインが急増して輸出量は2,180万リットルに拡大した一方、年初から10月までの輸出額は2.6%減少した

2026年11月11日（水）



アルゼンチンのワイン輸出は10月に回復し、前年同月を上回る輸出額と輸出量を記録した。ただし、海外向けの販売量が増えた一方で、年初から10月までの輸出額は前年同期を下回った。

アルゼンチン国立ブドウ栽培研究所（INV）の暫定データによると、ブドウ果汁を除くワイン輸出額は10月、FOBベースで6,808万7,000米ドルとなり、2025年10月の5,708万3,000米ドルから19.3%増加した。輸出量は2,184万8,100リットルで、前年同月の1,707万2,000リットルから28.0%増えた。

輸出量の伸びが輸出額の伸びを上回ったのは、平均輸出価格が下落したためだ。10月のワイン輸出の平均価格は1リットル当たり3.12米ドルで、2025年10月の3.34米ドルから6.8%下がった。9月と比べると、10月は前月を下回った。公式統計に基づく試算では、輸出額は663万3,000米ドル

（8.9％）減少し、輸出量も54万1,300リットル（2.4％）減った。

10月の増加は、輸出カテゴリー全体に一様に広がったわけではない。瓶詰め、または小売販売向けに準備された状態で出荷されるパッケージワインは、輸出量が10.9％増の1,470万リットル、輸出額が16.1％増の6,270万米ドルとなった。平均輸出価格は1リットル当たり4.26米ドルで、2025年10月から4.7％上昇した。このカテゴリーは引き続き業界の輸出収入の大半を占め、同月の輸出量の約3分の2、輸出額の約92％を占めた。

バルクワインは大幅に伸びたものの、価格ははるかに低かった。バルク出荷量は87.8％増の710万リットル、輸出額は76.2％増の530万米ドルとなった。平均価格は1リットル当たり約0.75米ドルで、パッケージワインの平均価格の5分の1未満にとどまり、2025年10月を6.2％下回った。輸出量が大きく伸びたバルクの白ワインが、増加の一因となった。

この傾向が年初来の統計で最大の焦点となっている。1月から10月までのアルゼンチンのワイン輸出量は1億6,916万4,700リットルで、2025年同期の1億6,055万7,900リットルから5.4％増加した。しかし、同期の輸出額は5億5,484万5,000米ドルから2.6％減少し、5億4,037万6,000米ドルとなった。平均輸出価格は1リットル当たり3.46米ドルから3.19米ドルへと下がり、7.6％の減少となった。

統計からは、アルゼンチンが海外でより多くのワインを販売した一方、1リットル当たりの収入は減ったことが分かる。単価の低下には、商品構成が大きく影響した。パッケージワインは引き続き輸出収入の中心だが、年初から10月までの実績は振るわなかった。同カテゴリーの輸出量は2.1％減の1億2,160万リットル、輸出額は3.3％減の5億280万米ドルとなった。平均輸出価格は1リットル当たり4.14米ドルで、2025年同期から1.3％下落した。

バルクワインは逆の動きを示した。1月から10月までのバルク輸出量は30.6％増の4,760万リットル、輸出額は7.4％増の3,760万米ドルとなった。しかし、出荷の平均価格は17.8％下落し、1リットル当たり0.79米ドルとなった。特に品種表示のないワインを中心に、低価格のバルクワインが急増したことで、アルゼンチンのワイン輸出全体の平均価格が押し下げられた。

この変化は、年初から10月までに輸出量が196.9％増加した品種表示のないバルクワインで特に顕著で、白ワインが増加をけん引した。同ワインの輸出価格は1リットル当たりわずか0.34米ドルで、2025年同期から30.7％下がった。品種表示のあるバルクワインの平均価格は1リットル当たり0.93米ドルと高かったが、価格全体への下押し圧力を相殺するには至らなかった。

10月の回復に先立ち、年央には輸出が低迷していた。ワイン輸出額は7月に前年同月比43.8％減、8月には27.3％減となった。9月は輸出額が17.8％増加し、10月も19.3％増となったが、こうした回復だけでは年初に積み上がった減少分を補えなかった。

10月の輸出量で最大の仕向け先となったのは英国で、510万リットル、輸出額は970万米ドルだった。その多くはバルク出荷だった。輸出額では米国が首位で、450万リットルから1,840万米ドルを得た。その大半はパッケージワインだった。次いでブラジルが250万リットル、940万米ドルで、すべてパッケージワインだった。カナダは160万リットル、500万米ドル相当を輸入した。

INVの数値は暫定値であり、通関申告の遅れや訂正の処理に伴い、今後変更される可能性がある。